

12. 文献を調べよう

レポートや卒業論文では、テーマに関する先行研究の内容をまとめ、文献や調査データなどの事実を根拠として、自分の考えや主張を述べるのが求められます。レポートや卒業論文などで根拠として使うことのできる文献を調べるためには、データベースを使います。データベースには、いろいろな種類があるので、目的に応じて使い分けなければなりません。ここで紹介するデータベースに収録されている情報は、通常検索エンジンでは検索できません。

文献集めは、次の手順で行います。

- ①基礎知識・言葉調べ
- ②文献検索
- ③文献入手

まず、テーマの概要、基本的な事項や概念、言葉の意味を調べます。これには、百科事典や辞書類を用います。このとき、自分のテーマに関連するキーワードを広く集めておきます。次のステップの文献検索に役立ちます。

次に、文献検索を行います。論文、図書、新聞、統計情報に分けて、検索します。

そして、文献を入手します。入手方法には、①デジタル資料をダウンロードする、②図書館の所蔵をOPACで調べて入手する、③購入する、の3つがあります。

調べた資料は、必ず出典をメモしましょう。レポートを書くときに必要です。必要事項は、「引用」参考文献の出店の書き方」の項目を参考にしてください。

以下に紹介するデータベースのうち、URLが記されていないものは、学内コンピュータからのみ利用できます。清泉女子大学附属図書館 Web ページ (<http://www.seisen-u.ac.jp/lib/>) の画面下部「データベース・電子ジャーナル」リンク集からはってください。

1. 基礎知識・言葉調べ

基礎知識や言葉を調べるには、次のようなツールを使います。冊子体もありますが、その Web 版が利用できます。

- ①百科事典、現代用語事典
- ②人名事典、地名事典
- ③国語辞書、漢和辞書、外国語の辞書

1) 百科事典で調べる

まずは、百科事典を調べてみましょう。いまさら百科事典と思うかもしれませんが、しかし、各分野の権威ある専門家が執筆した百科事典は、あるテーマについて学術的に調べていくための出発点となり

ます。たとえば、『JapanKnowledge』データベースに収録されている百科事典『日本大百科全書（ニッポニカ）』（小学館）で、女性史について調べてみます。「女性史」という項目には、総論につづき、日本を中心に、アジア、欧米の古代から現代までの歴史・事情の概説があり、年表、参考文献、関連サイトなどが付されています。この項目の場合、解説文は40,000字を越えています。これは、新書1冊の3分の1に匹敵する分量です。ここから体系的知識やキーワードを得て、レポートのテーマを絞り込むためのヒントをもらい、信頼のおける参考文献や関連サイトを知ることができます。冊子体の百科事典は、10年に1度の割合で改訂されるのが一般的ですが、Web版『日本大百科全書』は、毎月、項目の追加や改訂があり、新しい知識にも対応しています。

百科事典ではこのほかに、平凡社の『世界大百科事典』が収録されているデータベース『ネットで百科』や、『ブリタニカ国際大百科事典』（第二版）が収録されているデータベース『ブリタニカ・オンライン・ジャパン』が利用できます。ブリタニカは、英米で出版されたものが基になっていますから、日本の百科事典とは異なる視点が見られます。百科事典を調べるときは、1つだけでなく、複数の百科事典を比較してみましょう。テーマに関する視野を広げることができます。

自宅から百科事典を調べたいとき、『Yahoo!百科事典』（<http://100.yahoo.co.jp/>）を使ってみましょう。『日本大百科全書』をベースにした無料公開のもので、JapanKnowledgeに収録されているものと項目解説や参考文献は同じです。Wikipediaは、参考にするのはかまいませんが、別に述べたように、誰が書いたか特定できないなどの理由から、レポートの参考文献・引用文献とすることはできません。必ず、根拠とすることのできる文献で確認しなければなりません。

2) 最近の事柄や略語を調べる

百科事典では確立した知識を調べることができますが、新しい社会事象を調べるのには向いていません。新聞に登場するような略語や事柄の意味は、現代用語事典、あるいは新語辞書とよばれるツールを使って調べます。『現代用語の基礎知識』（自由国民社）、『情報・知識 imidas』（集英社）などの現代用語事典が、『JapanKnowledge』に収録されています。

3) いろいろな辞書・事典を調べる

人名や地名は、百科事典でも調べられますが、専門の事典を使うと詳しい情報が得られます。『JapanKnowledge』に収録されている人名事典、地名事典と、日本最大規模の国語辞書、を紹介しましょう。

<人名事典>

『日本人名大辞典』（講談社）は、古代から現代まで各分野で活躍した人物を収録しています。架空の人物や、現在活躍中の人物も含まれています。

『JK Who's Who』（小学館）は、まだ人名事典に載っていないような、今注目されている人物の情報を掲載しています。

<地名事典>

『日本歴史地名大系』（平凡社）は、古代から現代まで使われてきた全国の地名を項目として、その地域の歴史・文化・生活等を解説した地名事典で、歴史研究や文学研究に欠かせないツールの1つで

す。Web 版では、新しい研究成果にもとづく項目改訂や、検索機能、「明治復刻地図」と GoogleMap による現在の地図との比較などの機能が付加されています。

<国語辞書>

『**日本国語大辞典 第二版**』（小学館）は、冊子体では全 13 巻、項目数約 50 万、用例数約 100 万の最大規模の国語辞書です。言葉の成り立ち、意味、用法の変遷、時代ごとの出典、方言、語源説などが記され、日本語の歴史をたどることのできる辞書です。

4) 英語の表現、用例を調べる

英語の言葉を調べたいときには、英文の百科事典や新聞データベースも使ってみましょう。ある事柄を英語で説明するときの表現や、ある言葉が使われている文例を調べることができます。

『**ブリタニカ・オンライン・ジャパン**』では、日本語版の各項目の最後に、英語版のブリタニカ百科事典の関連項目へのリンクが付いています。ある事柄について、日本語の解説と英語の解説を対照させて読むことができます。『**Encyclopedia of Japan**』（講談社）（『**JapanKnowledge**』に収録）は、日本に関するあらゆる事柄をわかりやすい英語で解説した事典です。「わび」、「さび」など日本の文化を説明する英語表現を見つけることができます。

イギリスの代表的な新聞で、1785 年創刊の **The Times** のデータベース『**The Times Digital Archive 1785-1985**』と『**Times of London**』（1992 年から現在まで）では、入力したキーワードを含む表現を、200 年以上にわたる膨大な新聞から調べられます。もちろん歴史的な事柄を調べることに役立ちます。

『**ヨミダス歴史館**』に収録されている『**The Daily Yomiuri**』（1989 年から現在まで）には、英和辞典機能がついているので、最近の話題の事柄の英語表現を調べたいときに便利です。英和辞典機能を使うには、画面で「**Knowledge Searcher** を使用する」にチェックを入れ、本文中の調べたい言葉をマウスで選択します。

2. 文献検索

1) 論文を調べる

論文は、学会等が発行する学術雑誌や、大学や研究所が発行する紀要などに掲載されます。OPACで論文を調べることはできないので、「雑誌記事索引」と呼ばれる論文調べのための専用のツールを使います。その基本ツールは、『CiNii』（サイニイとよむ）（国立情報学研究所）（<http://ci.nii.ac.jp/>）です。国立国会図書館の『雑誌記事索引』（<http://opac.ndl.go.jp/>）に収録された論文の大部分も『CiNii』で検索できます。「CiNii PDF」、「機関リポジトリ」、などのリンク表示のある論文は、本文がダウンロードできます。日外アソシエーツの『Magazine Plus』には雑誌掲載の論文のほか、論文集など図書に収録された論文が収録されています。

最近では、研究者や研究所がインターネットで論文を公開している場合があります。こうした論文は、検索エンジンで調べることができますが、その Web サイトが大学や研究所、政府機関のドメインのものであるかなども手掛かりとして、レポートの根拠として使うことのできる文献かどうかを十分確認してください。

ある雑誌、たとえば『清泉女子大学紀要』、に掲載された論文を一覧したい場合は、**清泉女子大学附属図書館電子ジャーナルリスト**（<http://www.seisen-u.ac.jp/lib/search/serial.html>）を使います。学内から閲覧できる電子ジャーナルがリストされています。無料公開の電子ジャーナルは、自宅でも閲覧できます。

2) 図書を調べる

清泉女子大学附属図書館の蔵書検索で、テーマに関連する図書を調べる

清泉女子大学附属図書館 OPAC（<http://www.seisen-u.ac.jp/lib/>）で検索します。書名や著者名がわからないときは、基礎知識・言葉調べで集めたキーワードをいろいろ使って検索してみましょう。

テーマに関係する本が見つかったら、検索結果詳細画面の書名の少し下方に表示される「周りの本を見るへ」をクリックしてみましょう。図書館の書架でその本の近くに並んでいる本のリストを見ることができます。近くに並んでいる本とは、分類記号が同様の本、つまり、主題が同じ本です。

全国の大学図書館の蔵書を対象に、テーマに関連する図書を調べる

『Webcat Plus』（<http://webcatplus.nii.ac.jp/>）で、全国の大学図書館の蔵書が検索できます。Webcat Plus には、**連想検索**というユニークな機能があります。キーワードを入力して検索すると、検索された図書に使われている**関連ワード**が表示されます。自分の興味に近い図書と関連ワードにチェックを入れて検索を続けると、それらの内容に近い図書を探してくれるというものです。

国立国会図書館蔵書検索 NDL-OPAC で、テーマに関連する図書を調べる

国立国会図書館は、納本制度にもとづいて国内の出版物が収集されています。また政府刊行物などの資料も豊富です。『NDL-OPAC』(<http://opac.ndl.go.jp/>) 書誌検索（一般）で、テーマにあった図書が見つかったら、その書誌詳細表示の下方に表示される「普通件名」や「個人名件名」を確認しましょう。件名とは、その資料の主題を表す言葉です。「個人名件名」欄に記された人名は、その図書がその人物に関する研究書であることを示します。件名のリンクをクリックすると、その件名を主題にもつ資料が一覧できます。

公共図書館の蔵書を調べる

大学図書館は学術的な図書が中心ですが、公共図書館には、一般向けの図書や児童書も充実しています。地元の歴史や人物、行政に関する資料もあります。公共図書館 Web サイトのサービス (<http://www.jla.or.jp/link/public2.html>)、品川区立図書館蔵書検索 (<http://lib.city.shinagawa.tokyo.jp/>) など。

デジタル図書を調べる

著作権保護期間が終了した図書を中心に、デジタル公開が進んでいます。『国立国会図書館デジタルアーカイブポータル (PORTA)』 (<http://porta.ndl.go.jp/>) は、国会図書館、県立図書館等が公開するデジタル資料のリンク集です。国会図書館では『近代デジタルライブラリー』 (<http://kindai.ndl.go.jp/>) や、『児童書デジタルライブラリー』 (<http://kodomo4.kodomo.go.jp/web/ippangz/html/TOP.html>) などを公開しています。近代デジタルライブラリーには、明治・大正時代に出版されたあらゆる分野の図書が、デジタル画像で閲覧できます。ルイス・キャロルやグリム童話などの児童文学や外国文学の翻訳書も、数多く含まれています。

『JapanKnowledge』では、『源氏物語』（『新編日本古典文学全集』（小学館）所収）や『東洋文庫』（平凡社）の本文が読めます。『源氏物語』は、古典本文と、注釈（頭注）、現代語訳が同時に表示されます。

3) 新聞記事を調べる

新聞記事は、日々のニュースを伝える速報性の高いメディアです。しかし同時に、明治初期から毎日の社会の出来事を伝えてきた歴史的な資料でもあります。現在、新聞各社は Web ページで速報ニュースを流すだけでなく、過去の新聞記事の検索機能も提供していますが、その期間は 1 年程度です。データベースを使うと、130 年以上にわたって、歴史的な事象を調べ、明治から昭和の時代の紙面を、広告を含めて、見ることができます。『ヨミダス歴史館』は、明治 7 (1874) 年の創刊から今日までの読売新聞記事が検索できるデータベースです。1989 年までは新聞紙面イメージ、その後はテキストのみ、最近の記事は、写真つきの記事切り抜きイメージが見られます。『聞蔵 II ビジュアル』は、1945 年以降の朝日新聞記事データベースで、1989 年までは新聞紙面イメージ、2005 年 11 月以降は記事切り抜きイメージが見られます。(2010 年 4 月からは、明治 12 年の創刊から検索できるようになる予定です。)

新聞記事は、速報性を優先する性質上、情報内容に誤りのある場合があります。過去の出来事などの事実の確認に使う場合には、他の資料にもあたって確認すべきことに留意してください。

4) 統計資料・白書を調べる

統計資料は、現象の特性を数値的に処理して明らかにするものです。人口など日本の国勢の基本的な統計は総務省統計局が担当し、各府省庁は所轄事項に関する統計調査を実施、公表しています。『政府統計の総合窓口』(<http://www.e-stat.go.jp/>)から、国や地方のさまざまな統計データ、統計年鑑などがみられます。

統計データは、各府省庁が発行する白書や年次報告書の中にも多くみられます。白書は、府省庁が所管する分野の実態と施策の現状を国民に周知する目的で作成されるもので、『電子政府の総合窓口』(<http://www.e-gov.go.jp/>)の「白書、年次報告書等」から調べることができます。

3. 文献を入手する

ここでは、論文を入手する方法と、図書の購入方法に限定して説明します。

1) 論文を入手する

論文の入手は、3ステップで行います。①2の1)で説明した『CiNii』などで、論文が掲載されている雑誌名と巻、号、出版年を確認する。②各種 OPAC で掲載雑誌を検索して、所蔵図書館を探す。③図書館へ行く。

『CiNii』では、論文の詳細表示画面の「本文を読む/探す」欄に『Webcat Plus』へのリンクが表示されることがあります。これをクリックすると、所蔵図書館が調べられます。このとき注意してほしいことが2点あります。1つは、雑誌のタイトルだけでなく、その論文が掲載されている巻号が所蔵されていることを確認することです。もう1つは、清泉の図書館が『Webcat Plus』の所蔵図書館リストにないときは、清泉女子大学附属図書館 OPAC で調べなおすということです。これは、本学図書館の所蔵資料の中には、『Webcat Plus』に収録されていない資料があるためです。

2) 図書を購入する **購入する場合は、利用条件をよく確認してから利用しましょう**

a. **新刊書** オンライン専門の書店と、店舗を併せもつ書店があり、後者では、お取り置きも利用できます。アマゾンジャパン (<http://www.amazon.co.jp/>)、ジュンク堂書店 (<http://www.junkudo.co.jp/>)、紀伊国屋書店(<http://bookweb.kinokuniya.co.jp/>)、三省堂書店 (<http://www.books-sanseido.co.jp/>)など。

b. **古書** 新刊書店でみつからないときは、新古書店や古書店を探してみましよう。BOOK TOWN じんぼう (<http://jimbou.info/>)、日本の古本屋 (<http://www.kosho.or.jp/>)、スーパー源氏 (<http://sgenji.jp/>)、BOOK-OFF Online(<http://www.bookoffonline.co.jp/>)など。

4. もっと詳しく文献の探し方を知りたい方へ

専門分野の文献の探し方については、本学図書館の学生向けリンク集 (<http://www.seisen-u.ac.jp/lib/>

[link/japan.html](http://www.seisen-u.ac.jp/lib/link/japan.html)) や、資料検索のページ (<http://www.seisen-u.ac.jp/lib/search/>) を参考にしてください。

『国立国会図書館リサーチナビ』(<http://rnavi.ndl.go.jp/>) には、分野別、本の種類別に、調べものに役立つ資料や、Web サイト、データベースが詳しく紹介されています。